

ゴンドラ

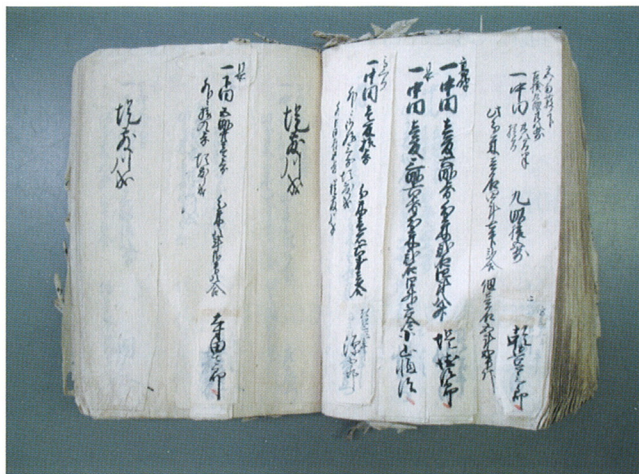
No.4

新収資料「柏原村文書」

平成19年4月に、柏原村の古文書が古書店の目録に掲載されているのを発見しました。それらの文書は、検地水帳や検地名寄帳、宗門人別帳などで、どれも柏原村の近世史を考えるうえで、重要な文書と考えられるものばかりです。柏原村の文書は、これまでに多数の寄贈・寄託を受け、その整理もかなり進んでいます。そして、さまざまなことがわかってきましたので、その成果をちょうど春季企画展「江戸時代の柏原村」として紹介しているところでした。しかし、柏原村の基本資料となる検地関係の史料は当館で収蔵しておらず、柏原村の近世史研究において課題となっていました。その検地関係の史料が売りに出されていたのです。

これまでに当館では資料購入の実績がなく、当然予算も計上されていません。しかし、この史料は、なんとしても購入しなければと思い、関係者に理解を求めましたところ、その重要性を理解していただき、購入が認められました。そして、早速7月からのスポット展示で紹介しました。

検地水帳は、延宝7年(1679)以来、明治に至るまでの土地割りの変化、所有者の変化を記録したものであり、この史料と絵図を対照することによって、柏原村の土地利用の実態をかなり明らかにすることができると思います。また、大和川付け替え(1704年)によって失われた土地も確認でき、今後、さまざまな研究資料となることでしょう。ほかの史料も、現在の戸籍に相当するような史料で、柏原村の研究に欠くことのできない史料です。今後、調査を重ねたいと思っています。



柏原村検地水帳



宗門人別御改帳ほか

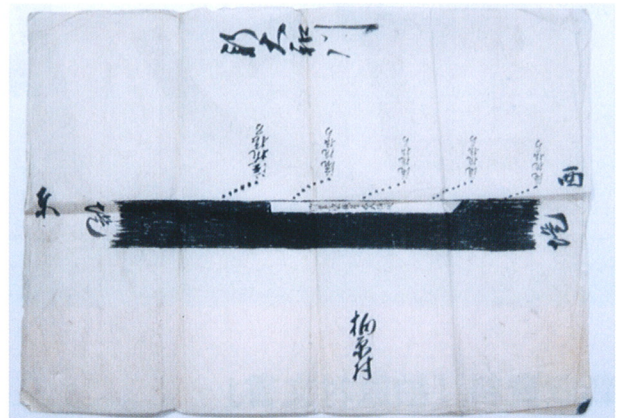
企画展のご案内

◎平成19年度秋季企画展

「大和川を守る一つけかえとその後」

平成19年9月25日～12月9日

例年開催している大和川の付け替えについての企画展です。大阪府内の小学4年生の学習に合わせた展示としており、毎年1万人近い小学生が見学に訪れます。大和川の付け替えに関連する中家資料を中心に、18年度は付け替え工事をテーマとしましたが、19年度は付け替え後の大和川の維持管理をテーマにします。



新大和川流杭配置図

ビデオ上映と講演会

10月28日（日） 13:30～15:00 当館研修室にて

中条武司氏（大阪市立自然史博物館学芸員） 「人工の川、大和川に自然はあるのか」

◎平成19年度冬季企画展「ちょっと昔の道具たち」

平成20年1月12日～3月2日

ちょっと昔の道具についての企画展も、例年冬に開催しています。この展示は、小学3年生の学習内容に合わせた展示で、多数の小学生が見学に訪れます。見学の小学生には、昔の道具の使い方の紹介や縄ないなどの体験学習も行っています。今年度はくらしの中の道具についての展示を計画しています。

◎平成19年度春季企画展「大和川付け替えと新田開発」（仮称）

平成20年3月22日～6月15日（予定）

大和川の付け替え後、もとの川筋などが新田に開発されました。平成20年は、その新田の最初の検地から300周年になります。そこで、付け替え後にどのように新田開発されたのか、その後どのように経営されたのかについて、柏原市に関係する資料を中心に考えてみたいと思います。

※タイトル・期間等は変更になることがありますので、事前にお問い合わせください。

— 刊行物のおしらせ —

- ・『河内六寺の輝き』平成19年度夏季企画展展示図録 300円
夏季企画展に伴う図録。一部カラー。32ページ。
- ・『河内国志紀郡柏原村柏元家文書目録Ⅲ』柏原市古文書調査報告書第5集 600円
当館に所蔵する柏原村柏元家文書の調査・整理報告。103ページ。
- ・『柏原市立歴史資料館館報』19号 600円
平成18年度の当館の活動報告と3本の資料紹介等を掲載。68ページ。

企画展を終えて

★平成18年度秋季企画展「川をつくる－大和川のつけかえ工事－」

平成18年9月20日～12月10日

会期中に92校、8,220人の小学生が見学に訪れました。見学の小学生には、解説とビデオ上映を実施し、理解を深めてもらえるようにしました。当館から歩いて約30分の付け替え地点の見学と合わせて、各学校とも見学コースを組まれています。

★平成18年度冬季企画展「ちょっと昔の道具たち－元気なこども－」

平成19年1月10日～3月4日

会期中に17校、1,589人の小学生が見学に訪れました。見学の小学生には、昔の道具や遊びなどを解説し、全員に縄ないの体験学習をしてもらい好評でした。

★平成18年度春季企画展「江戸時代の柏原村」

平成19年3月24日～6月10日

整理が進んできた当館所蔵資料を中心とした柏原村の近世文書をもとにした企画展を開催しました。地元の豊かな歴史に、市民の関心の高さを感じる展示となりました。

★平成19年度夏季企画展「河内六寺の輝き」

平成19年7月14日～9月9日

奈良時代に孝謙天皇が、河内国大県郡に存在したと考えられる六つの寺院に行幸した記録が残されています。その中の一つ智識寺には、聖武天皇が感動し、東大寺の大仏を造る契機となった仏像があったことも知られています。これら河内六寺について紹介する企画展を開催しました。同時に市民歴史クラブの人たちによる智識寺伽藍のCGによる再現も紹介しました。



夏季企画展「河内六寺の輝き」

活動の記録から

これまでは企画展に伴う講演会のみを実施してきましたのですが、来館者の方々から講演会の充実を望む声があり、新たに市民歴史大学という講演会を開催することにしました。市民歴史大学では、年間テーマを決め、そのテーマに沿った講演会を年4回開催することにしました。平成18年度は「古墳で何だ」、平成19年度は「聖武天皇とその時代」というテーマを設定して実施しました。

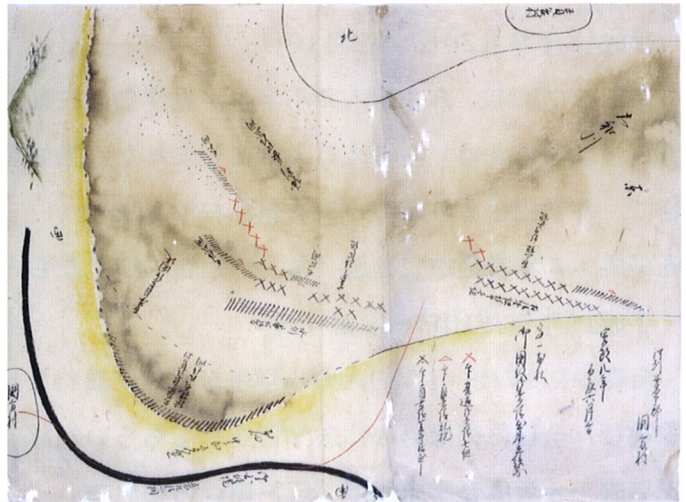


市民歴史大学

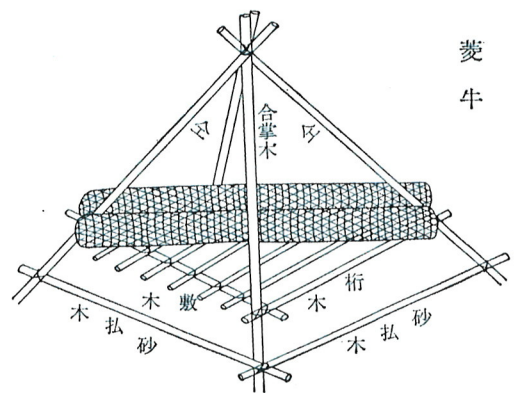
館蔵資料の紹介

当館では、ここ数年で多数の寄贈・寄託を受けた、国分村の古文書の整理を進めています。その史料のなかに、「御国役御普請出来立絵図」(個人蔵寄託史料)があります。それは、芝山の手前で大きく湾曲する大和川を描いたもので、各国から調達した資金による国役普請で工事を実施した記録と思われます。絵図には、堤防への水のあたりを和らげるための水制として菱牛や乱杭が設置されたことが描かれています。一部は国分村が自普請で設置したようです。おそらく、堤防が破損するような被害があったために実施された工事でしょう。このように、国分村に限らず、大和川沿いの村々は堤防を管理し、必要に応じて工事をして大和川を守っていたのです。

乱杭による水制は、これまでもさまざまな記録が見られますが、菱牛は大和川では初めて確認されたものです。菱牛とは、四角錐状に材木を組み、石によって安定させたものです。これによって、川の流れを緩めることができるのです。東日本ではしばしば見られますが、近畿地方ではほとんど見られず、貴重な資料となりました。この絵図は、平成19年度秋季企画展で展示しています。



御国役御普請出来立絵図（個人蔵）



菱牛（『地方凡例録』より）

－ひとこと－

ゴンドラ第4号をお届けします。ゴンドラのようにゆったりと進めていきたいと考えていますが、現実には次々と仕事をこなす毎日であり、なかなかゴンドラのようにはいきません。そのなかで、平成18年度から新しく市民歴史大学を始めました。また、平成18年度から市民歴史クラブ、19年度からは古文書クラブを立ち上げ、市民主体の新しい事業も始めました。市民歴史クラブは、智識寺伽藍の再現に取り組み、夏季企画展への参加という成果をあげました。新しい発想もなかなか生まれてきませんが、来館者の声に耳を傾け、少しでも改善できるところは改善していきたいと考えています。

柏原市立歴史資料館

休館日 月曜日（祝日でも休館）、年末・年始

開館時間 午前9時30分～午後4時30分 入館料 無料

〒582-0015 大阪府柏原市高井田1598-1 TEL 072-976-3430